

【目次】

1. アーカイブ No.21

連載「日本労働会館物語」第 18 回 2010.11.01 発行の第 20 号に掲載

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

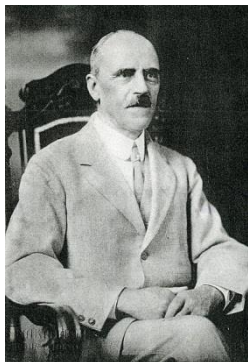
1.アーカイブ No.21

連載「日本労働会館物語」第 18 回 2010.11.01 発行の第 20 号に掲載

連載 「日本労働会館物語」第 18 回！

＜日本近代建築の父—ジョサイア・コンドル＞

明治 27(1893)年 3 月 25 日の唯一館(現友愛会館)竣工により米国ユニテリアン協会の一大拠点が確立し、ユニテリアンミッションが本格的にスタートすることになりました。



しかし、本連載の目的は唯一館から戦前の日本労働会館、総同盟会館を経て、戦後の総同盟会館、友愛会館・三田会館へと進む「会館物語」にあり、またそのゆかりの人々に関する「人間物語」です。それ故、今回はユニテリアンミッションから離れ、唯一館とその設計者であるジョサイア・コンドル(1852～1920)について記述してみます。



コンドル 1852 年 9 月 28 日に英国ロンドンで生まれ、1920 年 6 月 21 日に東京で亡くなっています。それ故、今年はコンドル没後 90 年で、お墓は東京・護国寺の一角にあります。2009 年には「ジョサイア・コンドルと鹿鳴館時代」展(写真上 1 枚目)が、旧岩崎邸(同 2 枚目)で開催されています。

コンドルはいわゆる明治政府のお雇い外国人。

1877(明治 10)年に 24 歳で来日し、旧宮内省本館や鹿鳴館、東京皇室博物館など政府関係の多くの建築物を設計しました。また、工部大学校(現東大工学部建築学科)で西洋近代建築を教え、辰野金吾や曾根達蔵、片山東熊らを育て、



「日本近代建築の父」と呼ばれた人物です。今も東京大学工学部建築家の前庭にコンドルの銅像が建っています。

一方でコンドルは画家の川鍋暁斎に弟子入りし、日本画を学ぶなど日本美術と日本文化に深い関心を持っていました。



現存するコンドルの建築物は、旧岩崎邸の他、旧古河邸(同3枚目)、旧島津邸(現清泉女子大、同4枚目)、三井家倶楽部(現綱町三井倶楽部)、旧諸戸邸(現桑名市六華苑)、ニコライ堂などがあります。

コンドルはやがて三菱・岩崎家の二代目彌之助と知り合い、彼の依頼で1890年前後から三菱グループや岩崎家の建築を数多く設計しま

した。特に三菱グループが払い下げを受けた東京・丸の内の20万坪の土地に、



いわゆる「三菱村」を作ったことはよく知られています。これによりコンドルは「丸の内赤レンガ街をつくった男」とも呼ばれています。

その中心的な建物が三菱一号館(現在の三菱一号館美術館。2009年4月再建)で、この三菱一号館とユニテリアン教会・惟一館、そして東京基督教青年会館は、同じ1894(明治27)年に竣工しています。

(文責 間宮悠紀雄)

-----**「人間の尊厳、進歩と発達のために」**-----

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

-----**惟一館から130年、友愛会から112年**-----